

利尻島における鳥類の新分布の記録 (2012 年)

田牧和広

〒 097-0211 北海道利尻郡利尻富士町鬼脇字沼浦

Newly Recorded Birds from Rishiri Island, Northern Hokkaido in 2012

Kazuhiro TAMAKI

Numaura, Oniwaki, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0211 Japan

Abstract. Three bird species, *Grus grus*, *Charadrius hiaticula* and *Larus saundersi*, were newly recorded from Rishiri Island, northern Hokkaido in 2012.

2012 年に筆者により観察された利尻島未記録種の鳥類 3 種について報告する。観察記録は、観察場所、観察年月日、個体数の順に記し、種の配列、和名及び学名については日本鳥類目録編集委員会 (2000) に従った。

なお、以下の方々にはクロヅルの観察について情報提供をいただいた。川原修子さん (仙法志小学校)、佐藤由美子さん (利尻町杵形)、鎌田喜男さん (利尻町杵形)、佐藤雅彦さん (利尻町立博物館)。クロヅルの写真は山本貴之さん (環境省稚内自然保護官事務所利尻事務室) に提供いただいたほか、小杉和樹さん (日本野鳥の会道北支部) には掲載にあたり原稿の校閲をいただいた。記してお礼を申し上げる。

クロヅル (Fig. 1)

Grus grus (Linnaeus, 1758)

利尻富士町鬼脇字沼浦, 2012. ix.25, 1

利尻町仙法志, 2012.ix.25, 26, 30, 1

筆者が本種を観察した場所は、利尻島南東部の沼浦地区である。2012 年 9 月 25 日午前 8 時ごろ、町道横の草地を歩いているところを発見した (Fig. 1a)。民家の玄関前や花畑の中を採餌しながら移動

していたが、筆者から 20m ほど手前の位置で突然上空に舞い上がり、強風にあおられ北西方向に移動し、そのまま姿が見えなくなった。観察した個体の体全体は灰褐色、前頸は黒色で後頸が白色、跗蹠は黒色で足指が茶褐色 (Fig. 1a)、虹彩は橙色、わずかに頭頂が赤く、飛翔中の雨覆は灰色で風切は黒色だった。真木・大西 (2000) によるクロヅルの特徴と本個体 (Fig. 1b) は一致することからクロヅルの成鳥と推定された。本個体は頭頂が赤いので本種の若鳥でない (叶内, 1998)。類似種のタンチョウは体の上面下面とも白く、またナベクロヅル (クロヅルとナベヅルの交雑個体) は、顔と頸の様相が不鮮明 (桐原, 2000) で、どちらも本個体とは異なる。観察した当日は低気圧通過により風雨が強い悪天候で、渡りの途中の一時的避難と思われる。雨の中を採餌しながら歩き回り、特に弱っているようには見られなかった。

筆者の観察以外にも、同一個体と思われる本個体の観察例が同日以降もあるのであわせて記述しておく。9 月 25 日午前 11 時 37 分ごろ、利尻島南部にある仙法志地区の仙法志中学校敷地内で川原修子さん (仙法志小学校) によりツル 1 羽が発見された (Fig. 1c)。一旦、この個体は車道を横断し、近くの町営住宅敷地内や隣接する畑などに移動したが、

再び、中学校内のグラウンド付近に戻り、夕方近くまで時折場所を移動しながら、飛び立つ様子も見せずにいたという（佐藤雅彦さん、私信）。次に9月26日の朝には仙法志中学校から北西方向に移動し、飛翔している姿を佐藤由美子さん（利尻町杵形）が確認している。その後、このツルはしばらく観察されることはなかったが、9月30日に再び仙法志地区のパークゴルフ場で鎌田喜男さん（利尻町杵形）によって観察された。鎌田さんによると時折飛翔するなど、衰弱した様子はなかったとされ、これが本個体の利尻島における最後の観察となった。

なお、筆者が沼浦地区で観察した個体と25日に仙法志で観察された個体（Fig. 1c）を比較したところ、頭部の黒色部の分布や不明瞭な頭頂の赤色部、橙色の虹彩、灰色を呈する背や雨覆、茶褐色の足指などが一致したため、同一個体と考えられた。

クロヅルは、スカンジナビア半島からシベリアのコリマ川にかけての地域で繁殖し、南ヨーロッパ・アフリカ北部・インド北部・中国で越冬する。日本では数少ない冬鳥として飛来し（桐原, 2000）、北海道では迷鳥として知られ、千歳長都、大樹、釧路、阿寒などから記録されている（藤巻, 2010）。これ

まで利尻島からの本種の記録はなかった（小杉, 2012）。

ハジロコチドリ (Fig. 2a)

Charadrius hiaticula Linnaeus, 1758

利尻富士町鬼脇字沼浦, 2012. vi. 4 ~ 6, 1

筆者が本種を観察した場所は、利尻島南部の沼浦地区の砂浜海岸である。2012年6月4日、この海岸の西側で「ピューイ、ピューイ」とキアシシギに似た鳴き声を耳にし、その姿を探したところ突然1羽の鳥が飛び立ち、東方向に200mほど離れた場所に再び降りた。20mほどの距離を置いた観察によると、そのしぐさはコチドリに似ており、体を上下させて鳴いたり、突然すばやく走りだしてエサを啄ばんだりしていた。その際に額と目の後方が白色、頭頂から後頭にかけては灰褐色、喉から後頸にかけては白色、胸から後頸下部は黒色のほか、嘴は黄橙色で先は黒く、足は黄橙色などの夏羽の特徴を確認することができた（真木・大西, 2000）。ただし、本個体では過眼線が完全に黒くない（Fig. 2a）ことから冬羽から夏羽への移行個体と考えら

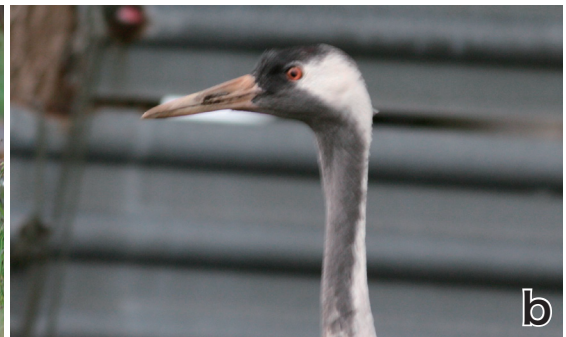


Figure 1. *Grus grus*. a & b: photos by the author on September 25, 2012 at Numaura, c: photo by T. Yamamoto on Sep. 25, 2012 at Senhoshi.



Figure 2. Newly recorded birds from Rishiri Island. a: *Charadrius hiaticula*, b: *Larus saundersi*.

れた。この個体は6日まで同海岸で観察された。

ハジロコチドリは、グリーンランド、ユーラシア大陸北部、バフィン諸島で繁殖し、ヨーロッパ、アフリカ、西アジアで越冬する。日本では旅鳥または冬鳥として少数が渡来する(桐原, 2000)が、北海道では稀な旅鳥で、河口部や湖沼の干潟に飛来する。根室、別海走古丹、網走、コムケ湖の記録がある(藤巻, 2010)。これまで利尻島からの本種の記録はなかった(小杉, 2012)。

ズグロカモメ (Fig. 2b)

Larus saundersi (Swinhoe, 1871)

利尻富士町鬼脇字沼浦および字南浜, 2012. iv. 3, 1

観察場所は、利尻島南部の沼浦地区と南浜地区の海岸である。2012年4月3日、筆者は沼浦の海岸を東から西方向へ飛翔中の小型カモメ1羽に気付いたが、100mほど離れた海岸に本個体が降りた後、その姿を見失った。そこで、沼浦から2kmほど西に位置する南浜地区の海岸を探したところ、再び飛翔中の同個体と思われる姿を確認することができた。このカモメが海岸を飛翔し何度も往復した際、翼上面の初列風切の先端だけが黒いこと、また、翼下面の初列風切に明瞭な黒斑があることが観察された。その後この個体が海岸中央部の波打際に降り静止した時に、太く短い黒色の嘴、暗赤色の足、翼先端の白と黒の斑、そして本種の成鳥夏羽の特徴である眼の上下の白い縁取り、黒い頭部などを、筆者は20mほどの距離から観察することができた。

しかし、頭部は後頭部まで頭巾状に黒くない (Fig. 2b) ため、第1回夏羽の個体と思われた(氏原・氏原, 2010)。観察後本個体は再び西方向に飛び去った。

ズグロカモメは、中国東北部とモンゴルで繁殖し、中国南部・台湾・韓国・ベトナム北部で越冬する。日本では冬鳥として飛来する(桐原, 2000)が、北海道内でもこれまでに秋と春に少数が観察されており、鶴川、千歳、豊頃湧洞沼、浦幌、などからの記録がある(藤巻, 2010)。礼文島でも2011年4月25日～5月5日に冬羽の個体が記録されているが(嶋崎ほか, 2012)、これまで利尻島からの本種の記録はなかった(小杉, 2012)。

参考文献

- 藤巻裕蔵, 2010. 北海道鳥類目録改訂3版. 極東鳥類研究会. 美唄. 74pp.
- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥550. 水辺の鳥. 文一総合出版. 東京. 351pp.
- 小杉和樹, 2012. 利尻島の野鳥リスト. 利尻島自然情報センター. 自刊.
- 真木広造・大西敏一, 2000. 日本の野鳥590. 平凡社. 655pp.
- 日本鳥類目録編集委員会, 2000. 日本鳥類目録. 改訂第6版. 日本鳥学会, 京都. 345pp.
- 嶋崎太郎・村上賢治・富川 徹・小畑淳毅, 2012. 礼文島におけるズグロカモメ (*Larus saundersi*) の記録. 利尻研究, (31): 79-80.
- 高野伸二, 2007. フィールドガイド日本の野鳥.

増補改訂版. 日本野鳥の会. 374pp
叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 山溪ハンディ
図鑑7 日本の野鳥. 山と溪谷社. 623pp.

氏原巨雄・氏原道昭, 2010. カモメ識別ハンドブック改訂版. 文一総合出版. 80pp.